

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

|              |  |                        |                          |  |         |           |          |       |
|--------------|--|------------------------|--------------------------|--|---------|-----------|----------|-------|
| 展覧会名         | 版画×写真 1839-1900  |                        |                          | 担当者名                                     | 和南城・高野  |           |          |       |
| 会期           | 2022年10月8日(土)から12月11日(日)   |                        |                          | 開催日数                                     | 56日間    |           |          |       |
| 協賛・後援・協力     | 特別協力＝横浜市民ギャラリーあざみ野<br>助成＝公益財団法人朝日新聞文化財団  |                        |                          |  |         |           |          |       |
| 巡回館          | なし   |                        |                          |  |         |           |          |       |
| 展覧会概要        | 19世紀の写真の発明は文化や産業などあらゆる面において世界を大きく変えた。イメージを写し伝えるという同じ役割を担っていた版画にとっても写真の登場は重要なターニングポイントとなった。初期の写真では不十分な技術を補う役割も果たしていた版画が、やがて複製技術としての実用的な役割を奪われるなかで、芸術表現としての道を選ぶ過程を追った。版画の視点から見た初期写真史である。ヨーロッパを中心に、版画と写真作品に加え、カメラや撮影機材などの関連資料180点を展示した。 |                        |                          |  |         |           |          |       |
| ねらい・対象       | 19世紀の版画と写真の関係は、新技術の写真に版画が実用的な役割を奪われたという結果だけが取り上げられがちであったが、写真が登場し、その印刷が実用化されるまでの期間を追うと、必ずしも一方的な影響だけではなかったことが見えてくる。当館でこれまで開催してきた19世紀の版画革新運動を扱った展覧会とも関連する企画である。対象は一般だが、写真に興味をもつ層を新たに対象とすることができた。  |                        |                          |  |         |           |          |       |
| 関連催事         | 催事名  | 開催日                    | タイトル                     | 講師等                                      | 参加者数    |           |          |       |
|              | 講演会  | 11月5日(土)               | 「19世紀の写真技術～発明から普及まで～」    | 三井圭司(公益財団法人東京都歴史文化財団 学芸員)                | 35人     |           |          |       |
|              | ゆうゆう版画まつりイベント  | 10月22日(土)              | 「大事な写真をケースに入れよう」         | 担当学芸員                                    | 60人     |           |          |       |
|              | ギャラリートーク   | 10月29日(土)<br>11月20日(日) |                          | 担当学芸員                                    | 47人     |           |          |       |
|              | プロムナードコンサート  | 11月12日(土)              | 2×2=4Hands 4つの手で奏でる音色の世界 | カノンデュオシスターズ(ピアノ)<br>嘉村えりか、嘉村ゆりえ          | 146人    |           |          |       |
|              | 公開制作   | 11月26日(土)              | 「写真から版画へ」                | 藤田 修(版画家)                                | 79人     |           |          |       |
|              |  |                        |                          |  |         |           |          |       |
| 観覧料          | 一般   | 大・高生                   | 中学生以下                    | 無料日<br>・初日(10/8)<br>・シルバーデー(10/26、11/23) |         |           |          |       |
|              | 900円   | 450円                   | 無料                       |  |         |           |          |       |
| 観覧者数<br>(現在) | 有料計  | 無料計                    | 総観覧者数                    | 内、一般                                     | 内、65歳以上 | 内、大・高生    | 内、小・中生   | 内、その他 |
|              | 3,527人   | 2,160人                 | 5,687人                   | 5,065人                                   | 人       | 402人      | 220人     |       |
| 主な収入<br>(現在) | 目標値  |                        |                          |  |         |           |          |       |
|              | 観覧料収入  | 2,518千円                | 図録販売収入                   | 857千円                                    | 受託販売収入  | 403千円     | その他の特定財源 |       |
| 事業経費         |  |                        |                          |  |         |           | —        |       |
|              | ・報償費   |                        |                          |  | 146千円   |           |          |       |
|              | ・通信運搬費 輸送および展示・撤去委託  |                        |                          |  | 2,448千円 |           |          |       |
|              | ・事業・業務委託料 作品額装委託   |                        |                          |  | 721千円   |           |          |       |
|              | ・事業・業務委託料 広告宣伝委託   |                        |                          |  | 443千円   |           |          |       |
|              | ・作成委託料 ポスター等作成委託   |                        |                          |  | 3,045千円 |           |          |       |
|              | ・製作委託料 ディスプレイ等作成委託   |                        |                          |  | 550千円   |           |          |       |
|              |  |                        |                          |  |         | 計 7,353千円 |          |       |
| 主な広報・取材等の講評  | NHK Eテレ日曜美術館11月6日放映、朝日新聞夕刊11月8日「美の履歴書・精妙なりアルさ 何を生んだ」、東京新聞夕刊11月18日「美術評・100年の時を超える強さと美しさ」ほか  |                        |                          |  |         |           |          |       |

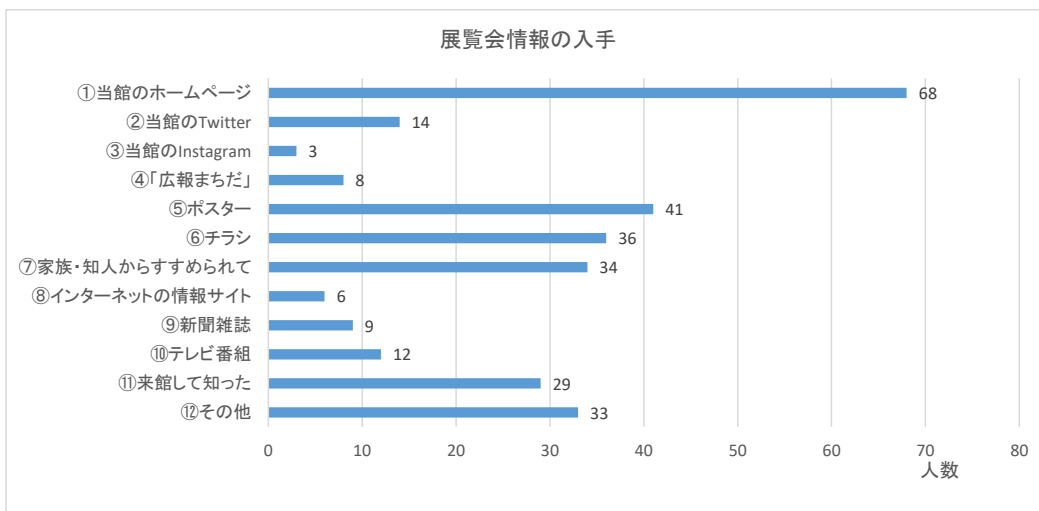
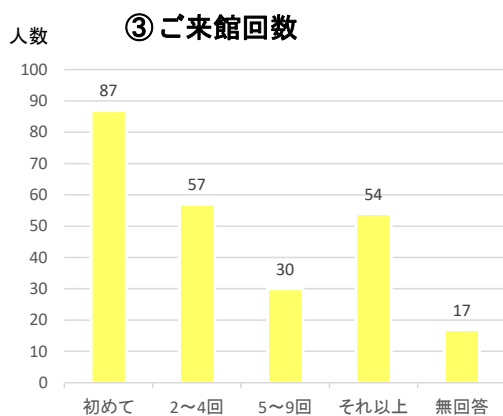
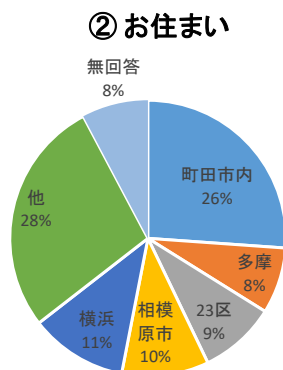
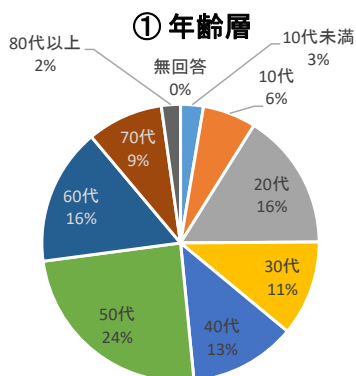
| アンケート結果     | 回収数  | 回収率  | 市民率  | リピーター率 | 満足度(とても良かったと良かったの率) |        |        |
|-------------|--|--|------|--------|---------------------|--------|--------|
|             |  |  |      |        | 企画の内容               | 展示作品   | 展示の仕方等 |
|             | 245 件  | 4.3 %  | 26 % | 64 %   | 95.9 %              | 95.5 % | 88.2   |
| 工夫と反省点と改善方法 | 主なご意見  | 別紙のとおり。  |      |        |                     |        |        |
|             | 予備調査   | 初期写真の全般的な歴史について資料調査を行い、展覧会の概略を組み立てた。並行して、写真関係の作品・資料を収蔵する美術館・大学図書館等で所蔵調査を行った。とりわけ横浜市民ギャラリーあざみ野では、非常に多くの資料を調査させていただくとともに、その際にご教示いただいた知識が企画を組み立てていく上で大きな力となったことに感謝したい。また調査の過程で、研究者から写真と深い関りをもつ版画の存在を教えていただくことができ、これまで版画史において見落としていた部分にも気づくことができた。 |      |        |                     |        |        |
|             | 作品選択   | 上記調査に基づき写真関連の作品および資料の選択を行った。版画については当館所蔵品を中心に組み立て、必要なものを他機関・個人から借用した。写真作品は全面的に借用する必要があったが、写真史の本に掲載されるような代表的な作品や、これまで外部に貸出を行ってこなかった作品を各機関よりご出品いただくことができ、歴史的展開を迫る構成を組み立てることができた。国内に所蔵がない作例についてはパネル等で補った。  |      |        |                     |        |        |
|             | 図録作成   | 気軽に手に取ってもらえるように、B5変形判の小ぶりな図録に仕上げた。カラー印刷の作品図版ページに短いコラム19本掲載、加えて作者作品解説、論文3本、年表、技法解説、参考文献を掲載、このテーマについて調べる人の入口となる資料ともなることを目指した。  |      |        |                     |        |        |
|             | ディスプレイ   | 急速に展開していく初期写真の技術を説明するため、文字による解説が多い展示となり、英文併記の章解説パネル6枚をはじめ、B2～A6半裁まで多くのキャプションを作成した。薬品名や技術を詳細に記すような説明は、観客が展覧会全体を把握するのをかえって妨げると考え、要点が伝わる短い文章になるよう心がけた。立体物が多く、順路に工夫が必要ではあったが、観客を飽きさせない展示になったのではないかと。   |      |        |                     |        |        |
|             | ポスター   | 版画と写真の変遷を追うという企画の性格、また出品作品のほとんどがモノクロであることから、メインビジュアルとなる作品を1点を絞ることに苦労した。最終的に気球の上から撮影する写真家を描いたドーミエのリトグラフを選んだことで、写真と版画の両者を扱った展覧会だと伝えられたのではないかと。   |      |        |                     |        |        |
|             | 広報   | ポスター800枚、ちらし40,000枚を作成、通常の送付先に加え、写真を扱うギャラリーや写真の専門学校への送付を行った。SNSで出品作品の解説を連続投稿し、展覧会の周知を図った。また、「長谷川潔展」に続きオンライン・プレスリリースを利用、さまざまな情報事業者に取り上げてもらった。こうした広報の結果、NHK日曜美術館、朝日新聞「美の履歴書」、東京新聞「美術評」などで取り上げられた。  |      |        |                     |        |        |
|             | 作品輸送   | 借用先は都内8機関、神奈川2機関、埼玉1機関と限られた範囲であったが、国内にある主要な初期写真作品の多くを集めることができた。特別協力の横浜市民ギャラリーあざみ野からは名刺判写真から大型のカメラ、さらには撮影用椅子まで大小あわせて51点もの作品を借用、点検・梱包に長時間かかり、かなりの負担をかけてしまったが、丁寧なご対応をいただくことができた。  |      |        |                     |        |        |
|             | 展示撤去   | 10月4日(火)から3日間で展示作業を行った。立体資料も多く時間がかかることが予想されたが、各セクションの大まかな区割りを決めておき、2名の担当者で分担して作品配置を行うことで作業が効率化できた。東京都写真美術館と横浜市民ギャラリーあざみ野から学芸員の展示立ち合いがあり、ダゲレオタイプへの照明の当て方など指示していただいた。  |      |        |                     |        |        |
|             | 展示室内の撮影  | 基本的にすべて撮影可とした。一部の作品は所蔵者の指示により撮影不可としたが、まとめて展示していたため、表示が分かりにくいといったトラブルはなかった。写真に興味がある来場者が多くせいか、好意的な声が多かったが、シャッター音がうるさいという苦情がやはり見られた。展示室での撮影を許可するようになって何年か経つが、マナーを定着させることの難しさを感じる。   |      |        |                     |        |        |
| イベント        | 三井圭司氏の講演会では動画を交えながら、ダゲレオタイプなど初期の写真技術をわかりやすく解説していただいた。公開制作ではフォトエッチングとフォトポリマーグラブュールで制作を行っている版画家の藤田修氏に実演を交えながら技法をご説明いただいた。ゆうゆう版画まつりではチェキで撮影した自分の写真を紙のケースに入れる簡単な工作イベントを行い、家族連れを中心に多くの参加者があった。                    |  |      |        |                     |        |        |
| その他特記事項     | 会期中に高ヶ坂小学校からの依頼で4年生全員の鑑賞会を行った。今回の展示は文字解説が多く、デジタル写真世代の児童が理解し興味をもつのは難しいのではないかと危惧していたが、それぞれが興味のある作品を見つけ楽しそうに鑑賞していたのが非常に印象的で、学校での鑑賞教育の効果が感じられた。ギャラリートークなどではつつい知識を教えがちだが、作品を楽しみ、自ら考えるという美術館教育の新たな可能性を感じさせる出来事だった。 |  |      |        |                     |        |        |
| 館長からの指導点    |  |  |      |        |                     |        |        |
| 運営協議会での検証   |  |  |      |        |                     |        |        |

# 「版画×写真 1839-1900」展

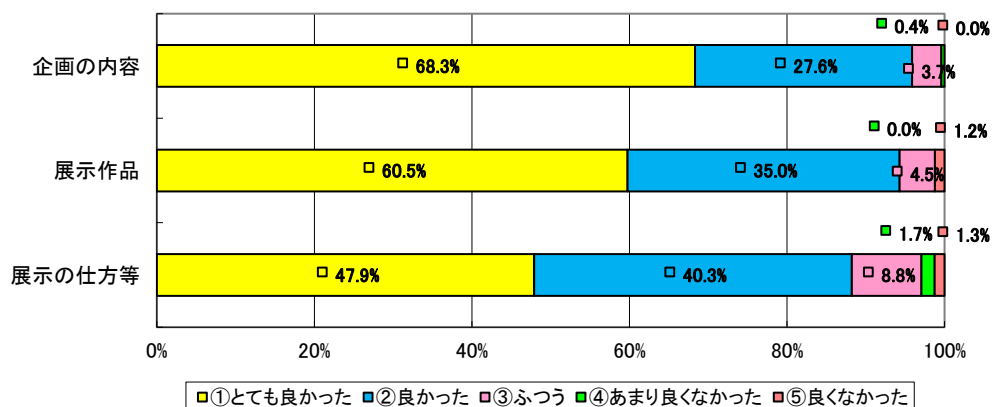
## アンケート集計結果

開催期間：2022年10月8日（土）～12月11日（日）

回答者数： 245 人（総入館者数：5,687人 アンケート回収率： 4.3%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### 展示方法

図入りの技法解説・説明文が分かりやすい／解説の量が必要十分／キャプションの文字が大きめで読みやすい／文章にユーモアがある／順路が分かりやすい／難しい内容を飽きさせることなく見せてくれた。

説明を理解するのが大変だった／もっと細かい説明がほしい／順路が分かりにくい／照明が暗い／ライトの当て方が悪い(ダゲレオタイプ、ケース内)／年表に日本の出来事をいれてほしい／簡単でいいので作品解説の英訳がほしい。

### 出品作品について

初期の写真や実際の機材を見られてうれしかった／これまで知らなかった興味深い作品があった／何度も見たくなる素晴らしい作品ばかりだった／技術と芸術の進歩が分かりやすい作品と解説パネルで示されていた／貴重だが展示の機会が少なかった作品を掘り起こした担当者の調査研究力に感心した

圧倒的な力がある作品がない／芸術志向になった版画の展示がほしかった／日本の状況の展示もあればもっと身近になった

### 企画内容

写真と版画を対比するテーマが面白かった／写真と版画の役割や変遷、相互の影響がわかった／技術、文化、メディア機能など多角的かつ包括的な展示だった／オリジナリティのある企画、考えたことのないテーマ／ニッチなテーマで楽しめた／続編を希望／分野を越境し橋を架けるような展示を今後も期待／マニアックな掘り下げ方が版画美術館らしい／充実したキュレーション／企画した人と友だちになりたい／意欲的な企画を認める環境が素晴らしい

### 感想

写真のもつ芸術性と商業性について考えさせられた／写真の客観性について考えさせられた／写真で記憶や記録を残せることの重要性に気づかされた／技術が人間の向上心や欲で発展することを改めて感じた／新技術によって社会が変化するのは今も昔も変わらないことに気づけた／AI技術が普及する現代への視点ともなる内容

### その他

撮影可でよかった／撮影の音が気になった／シャトルバスを平日も含め増便してほしい／小声でしゃべったら注意されて不愉快だった／特別協力の横浜市民ギャラリーあざみ野は距離的に近く、相互展にすればよかった

## ⑧ まとめ

アンケート結果の特徴として、回答者の70%以上が50代以下という点があげられる。写真といえば当然デジタルを思い浮かべる、むしろそれしか知らない世代が、金属板や印画紙に焼き付けられた物質としての写真にかえて興味をもったのかも知れない。横浜市民ギャラリーあざみ野の全面的な協力により、初期写真や機材を多数展示できたことも効果的だった。特にダゲレオタイプ作品はその精細さと美しさに注目を集めたが、鏡のように光を反射するためライティングに苦労した。各所蔵機関のご協力により、写真史の本に掲載されるような代表的な作品や、これまで外部に貸出を行ってこなかった珍しい作品が展示できたことも好評価につながったのだろう。

写真の発明が19世紀の版画に与えた影響については、「版画の冒険」(2012)など過去の企画展でも言及してきたが、ここまで写真を大きく取り上げたのは当館では初の試みであった。写真史を版画の視点から見るという企画が版画専門館ならではの点として評価されたと感じた。担当者もこれまで見落としていた点に多く気づかされ、再度扱いたいテーマとなった。現代の問題に引きつけた感想が見られたことも特長的だった。